

○景観作物（レンゲ）の栽培を通じた企業との連携活動

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	兵庫 ^{さようぐんさようちよう} 県佐用郡佐用町 ^{どい} 土井			
協定面積 2.0ha	田（100%）	畑	草地	採草放牧地
	水稻、 転作（レンゲ、ソバ）			
交付金額 41万円	個人配分 0 %			
	共同取組活動 （100%）	水路・農道等の維持管理 58% 鳥獣被害防止対策 31% 農機具の購入 11%		
協定参加者	23（農業者20名、営農組合1、水利組合1、その他1）			開始：平成12年度
人農地プランの作成状況	平成27年3月作成予定			

2. 取組に至る経緯

出雲街道と因幡街道が交差し、古くから宿場町として栄えてきた佐用。町南東部に位置する土井集落では、昭和51年水害をきっかけに翌52年からほ場が整備されたが、高齢化が進行し、後継者不足の問題を抱えていたことから、JA職員であったリーダーが集落の意見を取りまとめ、平成12年から本交付金に取り組んでいる。

第1期対策では、農道の舗装や拡幅など基盤整備に取り組んできたが、農業機械の効率的な活用が必要との意見が多く、また、兼業農家や跡取りのいない農家の受け皿として、平成17年、土井地区営農組合を立ち上げ、営農組合でトラクターを購入し、機械作業の共同化を進めている。

3. 取組の内容

土井集落では、機械作業の共同化を進めるとともに、シカ、イノシシによる被害防止のため、集落周辺にワイヤーメッシュを設置する等農業生産活動等の安定化に努めている。

また、以前から、養蜂農家と連携し、レンゲを栽培し集落の景観維持に努めてきたが、平成23年から、富士通コワーコ(株)と連携して、同社が環境貢献として進めている「ハニースマイルプロジェクト(注)」に取り組んでいる。

(注) 富士通コワーコが、平成23年から展開している運動。生物多様性の保全に資するよう、環境商品の売り上げの一部を活用し、農産物の受粉にとって重要なミツバチを確保するための蜜源の運営等の支援を行っている。

佐用町の場合、同町・富士通コワーコ・県・営農組合・養蜂振興会播州支部の5者で「企業と農山村の連携活動に関する協定」を締結し、土井集落を含む5集落と連携して蜜源確保を進めるとともに、富士通コワーコ社員への地場農産物の販売あっせん等集落活性化に向けた取組を実践している。



【企業との連携活動によるレンゲ栽培】



【獣害防護用電気柵の設置】

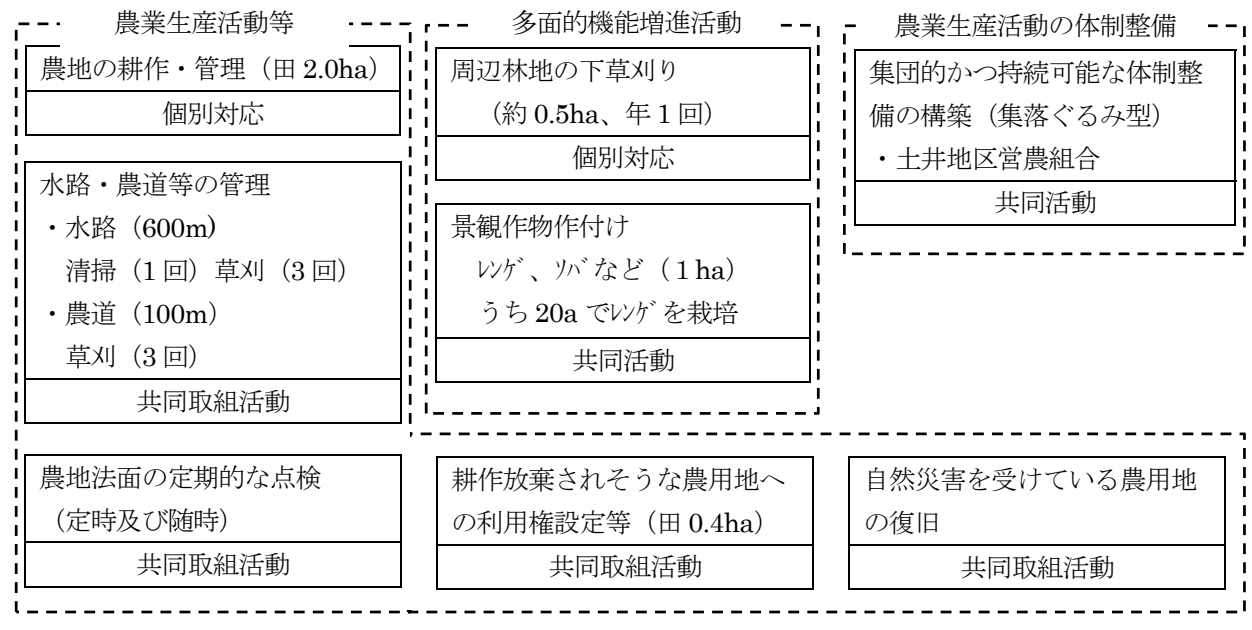
〔集落の将来像〕

- 集落ぐるみの農業生産活動等体制整備
- 集落の農道・水路の維持管理及び整備、鳥獣害防止柵の設置及び景観作物の作付けを行う。
 - ・高齢化が進むことが予想されるため、現在、農業を行っている者が中心となって維持する。
 - ・景観作物（レンゲ）を作付けし、現在の集落内の環境等を維持していく。
 - ・農業機械等の共同利用を行い、農作業の効率化を図るとともに集落営農におけるオペレーターの確保や育成を図っていく。



〔将来像を実現するための活動目標〕

- 機械・農作業の共同化等営農組織の育成
機械・農作業の共同利用面積の現状を維持。
- 共同で支え合う集団的かつ持続可能な体制整備
農業の継続が困難になった場合に備え、共同作業等のサポート体制の確立。



〔集落外との連携〕

- ひょうごハニースマイルプロジェクト
富士通コワーコ株式会社（横浜市）、近隣 5 集落（島脇、久保、新宿、弦谷、廣山）

4. 今後の課題等

土井集落では、機械作業の共同化、鳥獣害防止対策の実施等により、集落ぐるみでの農業生産活動を実践してきたところであるが、今後は、協定参加者の高齢化進行を踏まえ、新たなオペレーターの確保等が急務である。

また、ハニースマイルプロジェクトについては、富士通コワーコ、養蜂振興会等を中心とした蜜源確保等の取組が地域に理解され、今後とも継続されることが、当集落における農業生産活動の安定化にも重要である。

〔これまでの主な成果〕

- ・ 共同利用機械購入（トラクター 1 台、播種機 1 台、ディスクプラウ 1 台）、
- ・ 電気柵設置（1,500m）